



## 活け花の異なる顔

エレナ・セルゲエワ  
エリザベータ・セレスニエワ

私は、生け花のクラスに参加するまで、生け花は美しい花瓶に生きた花の組み合わせだと思っていました。展示会に見られるような美しい絵画のように。もちろん、大使館の窓の向こうの山岸先生、坂本先生と女性たちの姿を見て、美しい花の組み合わせを作るためには何かの過程を経なければいけないと思っていましたが、この過程の本質についてはクラスに参加してから理解出来るようになりました。

まず、生け花は創造です。花の色や形、凹凸があって手におえなかったり、ときには頑固だったり不機嫌だったりする花たちに向うけど、先生たちのように絶対には活けられません。束ねた花は、人の群れのように個々の形状がないし顔もないように見えます。それから、一本一本分けて机の上においておくと、見捨てられたようにさびしく見えます。背を向けて人目を避け、何かを隠そうとしているかのようです。花は秘密を守ろうとしているか、私には未知の言語でお互いに話しているのでは？ どうしたら私にも聞こえるのでしょうか？ 花たちの心を開くにはどうしたらいいでしょう？ 始めるのが怖いくらいです。

生け花は花の気持ちをわかること。それだけでなく、ほかの生徒たちの気持ちを分かってサポートすること。私が混乱しているのを見て、長いこと生け花を学んできた人たちはすぐ手を貸してくれます。私の不器用な手は、上手なお弟子さん達



の手と絡み合って、見えない剣山の上であたかも花が自分で望んだかのように一緒に花を活けることができます。花たちは変貌をとげ、心を開いて蘇ったかのようになり、完成するのです。ほかの参加者のことを考えて私たち

はひとつの家族になります。花たちも同じ家族になるのではないのでしょうか？

生け花は対話です。人々と花の会話やメロディです。私たちは自分自身と、花と隣の人と先生と話します。質問とその答え、隣人の生け花を賞賛する声。オーケストラの楽器のようにひとつでも美しいけど、合わせるともっと美しくなる。毎回、何か新しいものが生まれます。生け花はシンフォニーです。

子供の教育に似ているのではないのでしょうか？ 山岸先生と坂本先生はいつも私たちを称賛してくださいます。生け花が出来ると、私たちは子どものように満足します。そして、隣の人の出来栄も楽しみ、お互いにほめたたえる。お互いに助け合い、喜びを共有するすばらしい雰囲気です。いつも優しく忍耐強い先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。出来あがった生け花はこの喜びに溢れ、自宅にも運んでくれます。2週間の間、次の生け花のお稽古の日まで。

